



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年1月31日

上場会社名 富士紡ホールディングス株式会社
 コード番号 3104 URL <https://www.fujibo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役会長兼社長 (氏名) 中野 光雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 吉田 和司
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3665-7612

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	29,520	5.3	3,363	10.3	3,529	10.2	2,162	2.6
2019年3月期第3四半期	28,035	4.0	3,048	5.1	3,203	7.8	2,106	13.3

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 2,320百万円 (18.9%) 2019年3月期第3四半期 1,952百万円 (27.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	188.93	
2019年3月期第3四半期	184.15	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	51,857	33,974	65.5
2019年3月期	52,270	32,778	62.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 33,974百万円 2019年3月期 32,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		50.00		50.00	100.00
2020年3月期		50.00			
2020年3月期(予想)				50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,700	4.3	3,800	0.5	4,000	0.4	2,600	2.4	227.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	11,720,000 株	2019年3月期	11,720,000 株
2020年3月期3Q	272,940 株	2019年3月期	281,911 株
2020年3月期3Q	11,443,534 株	2019年3月期3Q	11,438,441 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により、緩やかな回復基調で推移しているものの、米中通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、中東の地政学リスクなど、海外経済の不確実性により、輸出が弱含むなか、製造業を中心に弱さが増してきており、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境の下、当フジボウグループは、現在実行中の中期経営計画『加速17-20』で、計画期間の後半2年を「成長の加速」ステージと位置づけ、当期においては、これまで進めてまいりました研磨材事業・化学工業品事業での研究開発力、生産能力の強化を各事業の拡大に発現させております。また、繊維事業では、事業環境の変化に対応するため、更なる構造改革を進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比1,485百万円(5.3%)増収の29,520百万円、営業利益は315百万円(10.3%)増益の3,363百万円、経常利益は326百万円(10.2%)増益の3,529百万円となりました。これに特別損益、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比55百万円(2.6%)増益の2,162百万円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

①研磨材事業

主力の超精密加工用研磨材は、半導体デバイス用途(CMP)等は米中貿易摩擦、日韓貿易問題など不透明な経済環境の中、その影響も懸念されましたが、各種センサー、通信用途向けが拡大しました。ハードディスク用途はデータセンター用が復調し、液晶ガラス用途も大型パネル向けを中心に堅調に推移しました。

この結果、売上高は前年同期比507百万円(6.1%)増収の8,806百万円、営業利益は149百万円(8.4%)増益の1,922百万円となりました。

②化学工業品事業

機能化学品および医薬中間体などの受託製造は、中国における環境規制の影響や高い品質を要求される化学工業品において、生産の日本国内回帰の傾向が続いており、農業用、機能性材料用を中心に全ての分野で堅調に推移し、柳井工場・武生工場ともフル稼働となりました。

この結果、売上高は前年同期比1,631百万円(19.9%)増収の9,831百万円、営業利益は381百万円(69.9%)増益の927百万円となりました。

③繊維事業

アンダーウェアを中心とする繊維製品は、インターネットなど新規チャネルでの販売は拡大を続けておりますが、地方百貨店の減少、大手量販店における衣料品売場の縮小に加え、プライベートブランドへの転換の影響を受け、メンズインナー定番品の販売の減少が続きました。そのため、日本国内および中国の縫製工場の縮小・撤退を進め、コスト競争力の高いタイへの生産シフトを進めました。繊維素材では、原材料価格高止まりに対応するための販売価格への転嫁と、採算性の低い商材からの撤退を進めました。

この結果、売上高は前年同期比1,339百万円(14.7%)減収の7,748百万円、営業利益は361百万円(55.4%)減益の290百万円となりました。

④その他

貿易事業は、中米カリブ海地域向け自動車・農業用機械などの三国間貿易が回復傾向となってきました。化成品事業は、デジタルカメラ用部品は減少しましたが、医療機器用部品が堅調に推移し、大分工場新ラインの稼働を開始しました。また、2018年10月1日付で連結対象となったプラスチック射出成形用金型子会社が貢献し、売上高・利益が前年同期比で増加しました。

この結果、売上高は前年同期比685百万円(28.0%)増収の3,133百万円、営業利益は145百万円(186.7%)増益の223百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産合計は前連結会計年度末に比べて413百万円減少の51,857百万円となりました。

流動資産は1,288百万円減少の18,570百万円となりましたが、これは現金及び預金が減少したことなどによります。固定資産は875百万円増加の33,287百万円となりましたが、これは主力の研磨材事業及び化学工業品事業において設備投資を進めたことによります。

(負債)

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,609百万円減少の17,882百万円となりました。

流動負債は1,641百万円減少の10,527百万円、固定負債は32百万円増加の7,355百万円となりました。これは、借入金や設備投資に伴う支払債務が減少したことなどによります。

(純資産)

純資産合計は前連結会計年度末に比べて1,196百万円増加し、33,974百万円となりました。

これは、剰余金の配当による減少が1,144百万円ありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加が2,162百万円あったことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、全体としては概ね予想通りに推移しているため、通期の業績予想につきましては2019年5月15日公表時から変更していません。なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,895	3,466
受取手形及び売掛金	9,369	9,410
商品及び製品	2,191	1,660
仕掛品	1,924	2,414
原材料及び貯蔵品	1,118	1,202
その他	376	445
貸倒引当金	△17	△30
流動資産合計	19,858	18,570
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,903	6,802
機械装置及び運搬具（純額）	5,721	5,456
土地	13,912	13,921
その他（純額）	2,588	3,713
有形固定資産合計	29,126	29,893
無形固定資産	828	765
投資その他の資産		
その他	2,456	2,670
貸倒引当金	△0	△42
投資その他の資産合計	2,456	2,627
固定資産合計	32,411	33,287
資産合計	52,270	51,857

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,576	3,896
電子記録債務	1,040	1,061
短期借入金	1,879	1,137
未払法人税等	581	375
引当金	692	369
その他	4,397	3,685
流動負債合計	12,168	10,527
固定負債		
長期借入金	426	298
退職給付に係る負債	4,860	4,857
資産除去債務	307	308
その他	1,728	1,890
固定負債合計	7,323	7,355
負債合計	19,492	17,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,673	6,673
資本剰余金	2,174	2,176
利益剰余金	22,455	23,473
自己株式	△573	△555
株主資本合計	30,729	31,767
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	550	674
繰延ヘッジ損益	△6	2
土地再評価差額金	1,270	1,270
為替換算調整勘定	238	236
退職給付に係る調整累計額	△3	23
その他の包括利益累計額合計	2,048	2,206
非支配株主持分	0	0
純資産合計	32,778	33,974
負債純資産合計	52,270	51,857

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	28,035	29,520
売上原価	18,506	19,651
売上総利益	9,529	9,869
販売費及び一般管理費	6,481	6,506
営業利益	3,048	3,363
営業外収益		
受取利息	4	1
受取配当金	44	48
固定資産賃貸料	186	200
その他	28	26
営業外収益合計	264	278
営業外費用		
支払利息	8	11
固定資産賃貸費用	49	46
コミットメントフィー	25	24
その他	24	28
営業外費用合計	108	111
経常利益	3,203	3,529
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	—	0
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産処分損	50	116
減損損失	8	6
構造改革費用	—	99
その他	1	9
特別損失合計	61	231
税金等調整前四半期純利益	3,142	3,299
法人税、住民税及び事業税	866	976
法人税等調整額	169	161
法人税等合計	1,035	1,137
四半期純利益	2,106	2,162
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,106	2,162

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,106	2,162
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△172	124
繰延ヘッジ損益	7	8
為替換算調整勘定	△16	△2
退職給付に係る調整額	27	27
その他の包括利益合計	△154	158
四半期包括利益	1,952	2,320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,952	2,320
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

原価差異の繰延処理

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を繰り延べて処理する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,298	8,200	9,088	25,587	2,448	28,035	—	28,035
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7	—	0	8	0	9	△9	—
計	8,306	8,200	9,089	25,596	2,448	28,044	△9	28,035
セグメント利益	1,772	546	651	2,970	77	3,048	△0	3,048

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業及び精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、(株)東京金型を完全子会社化し、連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において489百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	研磨材 事業	化学 工業品 事業	繊維事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,806	9,831	7,748	26,386	3,133	29,520	—	29,520
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	—	—	6	0	6	△6	—
計	8,812	9,831	7,748	26,393	3,134	29,527	△6	29,520
セグメント利益	1,922	927	290	3,140	223	3,364	△0	3,363

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車関連事業、化成品事業及び精製事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。